

2022年4月8日
生理検査研究班
班長 吉田 有紀

令和3年度（第27回）千葉県臨床検査技師会精度管理調査
（生理検査部門）における訂正について（お詫び）

令和3年度（第27回）千臨技精度管理調査に多数のご参加をいただき、会員の皆様に心より感謝申し上げます。このたび、生理検査部門（神経生理：問21）におきまして、一つの回答を導きだすのは困難ではないかとのご指摘をいただきました。生理検査研究班と千臨技学術部理事と再検討し、該当問題の正解を④と⑤の二つを正解とすることといたしました。理由は、下記に示すとおりです。施設評価が公開され、報告書も配布されたあとの訂正となりましたこと、深くお詫び申し上げます。

【訂正理由】

問題21は、尺骨神経の運動神経伝導検査で取り直しが必要と思われる波形を回答する出題でした。通常、正常であれば手首刺激・肘部末梢刺激・肘部中枢刺激の3カ所とほぼ同じ形状の波形が導出されます。そのため、波形が変化した場合などは導出筋の確認が必要となります。出題意図として、この内容について認識出来ているか否かを問う出題としました。したがって、設問に刺激部位であるS2は肘部から末梢側5cm、S3は肘部から中枢側5cmと記載いたしました。距離、伝導速度の結果は記載しませんでした。そのため、伝導速度の遅延については不明なため、波形が変化している⑤のC1波形が選択されるものと判断し、正解を⑤のみといたしました。しかしながら、④の波形であるS2-3間の潜時は延長しているように読み取ることが可能で、伝導速度の遅延が予測されます。よって、S1、S2、S3の波形が同形状であるのに対して、S2-3間の伝導速度の遅延が疑われるということは、距離の再計測か再測定を行うこととなります。問題にはS2-3間の距離が記載されているため、おおよその伝導速度を計算し回答を導いた場合、④と⑤で悩まれたご施設があると思います。以上のことより④を選択されても間違いではないと判断し、正解とすることといたしました。

問題作成に関しては、研究班員で内容を確認し、報告書作成の際は、出題の妥当性など協議したうえで提出しておりますが、今回の出題に関しては、的確な判断をすることが出来ませんでした。今後は、問題作成、評価について十分に留意して精度管理事業に取り組んで参ります。このたびは、会員および関係者のみなさまに多大なるご迷惑をおかけして大変申し訳ございませんでした。

今回の訂正が、自施設の評価に影響する施設におかれましては、大変お手数ではございますが、施設別報告書の再印刷をお願い致します。